

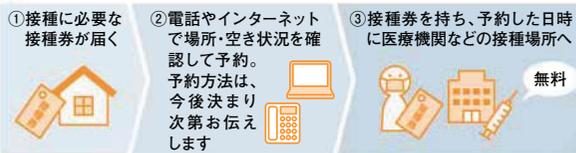
ワクチン接種に向けた現状は？

ワクチンが国内で承認され、供給できる準備が整った際に、希望する方が速やかに接種を開始できるように準備中です。今回のワクチンは、期間を空けて2回接種する必要があります。最新情報は今後もホームページや本誌などでお伝えします。

ワクチンって何？

一般的にワクチンとは、接種することで病原体が体内に侵入した際に、次のような効果があるものをいいます。
・発症を予防する
・症状を軽度を抑える

今回のワクチン接種の流れ(予定)



今回のワクチン接種の順番と時期

医療従事者から接種を開始。その後は重症化リスクの大きさなどを踏まえ、高齢の方、基礎疾患のある方を優先して接種を進めます。

●厚生労働省によるスケジュール例 ○接種券の送付時期 ✂接種開始

	2月	3月	4月	5月以降～
医療従事者		○	✂	
高齢の方			○	✂
その他の方				○

ワクチン接種に関するお問い合わせ

札幌市新型コロナウイルスワクチン接種お問い合わせセンター
☎351-8646
2/1(月)から。9時～18時

感染の拡大を防ぐには？

同居の家族などの普段一緒にいる方以外の方と過ごす機会が増えると、感染が他の集団に広がっていく可能性が高まります。感染しても無症状で元気な方もいて、気付かぬうちに感染を広げてしまう場合も。自分が感染しないことに加え、その先の人々へ感染を広げないために、外出の必要性や時期などの慎重な判断をお願いします。

感染しているAと普段一緒にいないB

過ごす機会がある

AからBの集団に感染が拡大



過ごす機会がない

Aの集団で感染を抑えられる



最新の状況や生活支援の情報

▶最新情報は市ホームページを随時更新して掲載

札幌市 新型コロナウイルス感染症について [検索](#)

▶「生活支援ガイド」をホームページに掲載しているほか、区役所(1ページ)、市役所1階市民の声を聞く課で配布

札幌市 生活支援ガイド [検索](#)

本誌16ページ～22ページ「札幌市からのお知らせ」にも、新型コロナウイルス感染症に関するお知らせの一部を掲載

体調不良に関する不安やその他の疑問の相談先

▶札幌市新型コロナウイルス一般電話相談窓口
☎632-4567(毎日9時～21時)

例えばこんな質問にお答えします

- ・発熱や息苦しさ、強いだるさは無いが体調に不安がある
- ・身近な人から陽性になったと連絡があったが、接触のあった自分はどうなるのか
- ・コロナにかかり、保健所内のさまざまな部署から連絡が来て連絡先が分からなくなった など

予防の方法

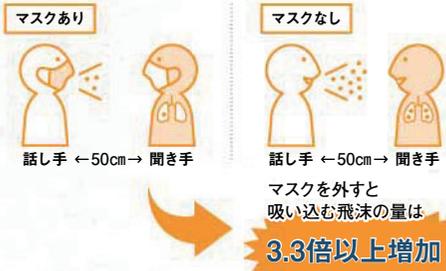
感染のリスクを避けるには？

新型コロナウイルス感染症は、飛沫などを介して広がります。3密を避けることや毎朝の検温などを続けた上で、少しでも体調が悪く感じるときは仕事や学校などを休み、外出しないといった対応が必要です。

飛沫による感染を防ぐために

50cmの近距離の会話で、聞き手と話し手が共にマスクをしている場合、聞き手が飛沫を吸い込む量は70%～75%程度抑えられるという研究結果があります*。

*厚生労働省ホームページ「新型コロナウイルスに関するQ&A(一般の方向け)」より



話すときは次のような対策を

- ・マスクを着用
- ・斜め向かいに座る など



▶ そのほか「手洗い」「身体的距離の確保」といった基本の対策の徹底を

発熱や咳などの症状が出たら電話で受診の相談を

■ かかりつけ医がない、分からない方

▶救急安心センターさっぽろへ電話(毎日24時間)

☎#7119 または ☎272-7119

発熱がなくても下記に該当する方はお電話を

- ・咳、痰、息切れなどの呼吸器症状のある方
- ・味覚や嗅覚に異常のある方 など

■ かかりつけ医がある方

▶かかりつけ医など身近な医療機関へ電話

■ 聴覚に障がいがあるなど、電話が難しい方

▶コロナに関する一般的な相談も下記までご連絡を

▶保健所健康企画課のファクス 622-7221、

Eメール kenkou-eisei@city.sapporo.jp

▶全日本ろうあ連盟ホームページ

[全日本ろうあ連盟 相談窓口](#) [検索](#)

*新型コロナウイルスの検査は医師の判断で実施します。検査を受けた場合は、結果の連絡があるまで外出を控えてください

私たちの生活に大きな影響を与え続けている新型コロナウイルス感染症。今回の特集では、引き続き徹底してほしい対策や、この危機を乗り越えるために最前線の医療機関で働く方の声をお伝えします。

※掲載情報は1月19日現在

新型コロナウイルス感染症 予防の方法、医療現場の声。

不当な差別や偏見を受けたときにはご相談を

新型コロナウイルスに感染し、心無い誹謗中傷を受けた方や、医療従事者などで理不尽な差別・偏見を受けた方向けに、相談窓口を設置しています。

市の相談窓口

■市民の声を聞く課 人権相談
☎211-2075 木曜9時～12時
事前予約は平日8時45分～
12時15分、13時～17時15分

札幌法務局の相談窓口

■みんなの人権110番
☎0570-003-110
平日8時30分～17時15分
■インターネット人権相談受付窓口
※Eメールアドレスなどの登録が必要

インターネット人権相談 [検索](#)

感染拡大を防ぐための行動をお願いします

新型コロナウイルス感染症と日々奮闘する医療現場。医療体制の逼迫を避け、今後の爆発的な感染拡大を防ぐためにも、基本的な予防を続けることが大切です。最新の感染状況に注意し、感染リスクを回避できない場合は不要不急の外出を控えるなど、北海道・札幌市からの協力要請に応じた行動をお願いします。

一般の方が感染を予防するにはどうすればよいのでしょうか？

接触感染よりも飛沫感染の事例が多い印象なので、飛沫の経路を断つような取り組みが第一。その点、マスクは非常に大切で、マスクを外して近距離で会話をするのはリスクの高い行動です。そういう意味で、感染者が多い時期に人と会って食事をするのは、少し我慢が必要かと思います。

病院のスタッフの感染予防として特に意識している対策は？

マスクやゴーグルなどで飛沫による感染経路の対策をしているのは当然として、あえて病院としての取り組みを挙げるなら、一般の方とは比べものにならない頻度の手洗いとアルコールによる手指の消毒ですね。何らかの処置をする前には手を洗う。処置の後にも手を洗う。感染管理担当部署の指導の下、病院全体でこうした意識を徹底しているので、スタッフ同士で広がる可能性は極めて低いと思います。

医療従事者の一人として市民の皆さんに伝えたいことは？

昨年の春ごろはマスクや防護服などが不足しそうになりましたが、市民の方から物資の寄付が届き、皆さんの思いを強く感じました。残念ながら、コロナとの闘いは続いています。皆さんが普段から対策をして生活していただければ、後は「市民の健康は我々が守る！」という意気込みで働きます。

感染者と接触した可能性をお知らせする通知システムのご利用を

新型コロナウイルス接触確認アプリ(COCoPA)

新型コロナウイルス感染症の感染者と接触した可能性について、通知を受け取れます。

コロナ 接触確認アプリ [検索](#)



<iPhone版>
iOS 13.5以上



<Android版>
OS 6.0以上

北海道コロナ通知システム

施設利用時に登録し、同じ日の利用者で新型コロナウイルスに感染した方がいた場合などに、通知を受け取れます。

北海道コロナ通知システム [検索](#)



医療現場の声

一般病棟からの応援を受けながら地域の病院とも連携して新型コロナウイルスと闘っています。

市立札幌病院感染症内科部長
永坂 敦 医師

新型コロナウイルス感染症を受けて医療現場の現状は？

当院では、一般病棟で他の病院に転院できる方には移っていただいたり、緊急の手術以外は見送らせていただいたりして、現状は何とかが対応できています。ただ、昨年11月ごろの新規感染者が毎日のように200人ほど出続けていた時期は、病床を数多く構えていてもすぐに埋まっていく怖さの中で、日々受け入れの対応に追われていましたね。

新型コロナウイルス感染症の治療方法や怖さなどは？

はっきり言うならば、有効な薬と言えるものは今もありません。呼吸が困難な方への酸素吸入、食事を自力で食べられない方への点滴など、いわゆる対症療法が現状の医療現場の対応です。入院したから治るということは、流行の始まりから1年以上経つ今もなく、時間の経過で体内からウイルスがいなくなるのを待つこととなります。もっと死亡率が高い病気はありますが、この病気は重症化すると肺が相当に硬くなるので、リスクの高い方へうつさないことが大切です。有効な治療薬が無い中で、ワクチンのニュースには期待したいです。

市立札幌病院の診療体制

1/19現在、一般病棟からの応援を含めて、医師31人看護師185人の専属スタッフで対応。これまでに643人の新型コロナウイルス感染症の患者を受け入れている。

昨年11月のピーク時には、医師37人看護師225人にまで体制を拡大。公立病院として、入院が必要な患者数の増減に応じて病床数などを調整し、縮小せざるを得ない一般診療科の業務の一部は、他の医療機関の協力を得ている。

